

令和4年度全国学力・学習状況調査より

校内全体研修会(各教科:今後の取組の方向性の考察) 2022.11.17(水)

1 分析の概要 ○…良かった項目について ●…課題のあった項目について

【国語科】

- 「知識・技能」の領域において、漢字を書くことや表現技法などの知識を身につけることができている。日頃の漢字テスト等の取り組みで基礎的な内容の定着が図られていると考える。
- 「思考・判断・表現」の領域においては、比較的長い文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る力や、内容を関連づけて解釈することに課題がある。また、自分の考えを的確に記述する表現力を身につける必要がある。

【数学科】

- 「連立二元一次方程式を手順に沿って解くということ」「多数の観察や多数回の試行によって得られる表やデータから確率の意味を理解すること」等の基本的な部分については教科書やワーク等で繰り返し演習ができていたため、知識の定着が図れていた。
- 「文字式の利用」「比例の利用」「図形の性質」では、結果に至るまでの過程や根拠を数学的に説明することに難しさを感じたと考えられる。記述式で答えなければならない問題は、無回答が多かった。また、記述している生徒についても正答率が低かった。

【理科】

- 静電気や天気の変化など日常生活の中で見られる現象と、教科書の実験の内容を結びつけて考えることができていた。また、1つの図を見て必要な情報を取り出し、短い言葉で答えることができた。
- 記述式で答えなければならない問題は、無回答が多い。
実験の内容や目的、その結果を文章や図などから読み取り、分析して答えなければならない問いについては誤答や無回答が多くなっていた。
力のはたらきの分野で、力が何から何にはたらくかを捉え、力の矢印や言葉で示すことができなかった。また、力とばねの伸びについての実験結果から、考察の妥当性を高めるために、どのような実験を追加して行えばよいかを記述することができなかった。
地層の広がりや、時間的・空間的な見方を働かせながら、地層の傾きを解釈できなかった。
未知の節足動物とアリの図を比較して、昆虫かどうかを判断し、その根拠を書くことができなかった。

【生徒質問紙】

- 「自分にはよいところがあると思う生徒の割合」と思う生徒の割合が80%に達している。R3と比較して5ポイント以上上がっており生徒自身の自尊感情が育っていることが示されている。
- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思う」生徒の割合がR3と比較して8ポイント以上、また豊岡市の数値と比較して9ポイント低い。豊岡市の取組でもある「授業における5つの徹底・継続実践事項」の一つである「話し合い活動」を基に生徒の主体的な活動への職員の後方からの支援の仕方について、より工夫した方策を研修していく。

2 これらの分析を受けて各教科今後の取組の考察

【国語科】

- 文章を主体的に読み取る活動を大切にする。
- 語彙を豊かにするため、文脈上の意味を考えたり、表現を言い換えたりする活動を取り入れる。
- 文章や資料を図や表にまとめて文章の流れや展開を整理できるようにする。

- ICTを活用し、自分の考えを伝えあったり、互いの考えを比較したりする学習活動を行う。
- 授業の内容のまとめや振り返りなどで自分の考えを書く機会を増やす。

◎全教科で、「読み取る力」「書く力」「伝える力」を伸ばしていく必要があるが、その核となる学力を国語科で培っていけるようにしたい。また、読書習慣を大切にしたい。

【数学科】

- しっかりと意味をとらえ、その過程を説明することができる生徒が少ないことに課題がみられる。習熟度別、一人一台端末等を効果的に活用し、個々のニーズに応じた学習を行い、数学的表現を用いて説明ができるように指導していく。

【社会科】

- 一問一答の形式で知識を確認するだけでなく、社会的な事象を根拠をもって説明する、あるいは分析するなどの場面を継続的に設定する。
- 国語と同じように教科書の文章の読み取り、数学のようにデータの読み取りが必要になる場面を引き続き設ける。
- 授業の中に、内容を主体的に読み取る力や意見をまとめる場面、相手に自分の考えをわかりやすく伝える場面などを設定していく。

【理科】

- 実験後の考察を自分の言葉で書く。
【考察を書きやすくするための手段】
 - ・予想をしてから、実験をする。
 - ・「考察の書き方」の見本を参考にする。
 - ・提示されたキーワードを入れて書く。
 - ・考察を書いたものを班で意見交流する。
- 授業後の振り返りを書く。
 - ・生徒は、自分の言葉で書くという習慣を身につける。
 - ・教師は、振り返りの内容を確認し、生徒のつまずきを確認する。次の授業づくりに生かす。
- 実験レポートの作成をする。
 - ・学期に一度は考察力を鍛えるため、ミニレポートの作成を行う。
 - ・テーマは、単元の終末に用いることができるようなものを選定し、発展的な学習ができるようにする。また、生徒ができるだけ興味を持って調べられるものにする。
 - ・レポートは、掲示するなど生徒の目に入る場所に置き、どのようにまとめれば上手くまとめられるか参考にさせる。
 - ・レポートの書き方についての指導を継続していく。

【英語科】

- 国語科の結果から、英語科においても思考・判断・表現の領域の力をつける必要があると考えられる。
- ドリル練習やパターン練習で、基本文型を身に付けるだけで終わらず、その文を設定された状況に合わせてアレンジして使う練習を継続的にしていく。
- 長文問題の練習をする際に、内容について自分の意見を英語で言ったり書いたりする場を設け、英語で表現することに慣れさせていく。
- 難しい問題にでも取り組む姿勢を養うため、定期考査の英作文の問題で「主体的に学習に取り組む態度」を測っていることを伝え、不完全でも解答させるようにしていく。

【音楽科】

- 音楽表現を「ことば」を使って相手に伝えたり、表したりすることに課題がある。
- 歌詞と旋律の関係性から表現の工夫を文章化する取組を継続する。

- キーワードを頼りに、鑑賞文の取組を継続する。
- 一層感じたことや考えたことを「話す」「書く」という形で表現させるようにしていく。

【美術科】

- 今後の課題としては多様な発想する力や想像力など、新しくより良いものを自分なりに工夫して作りあげていく力を養うことを考えていく。
- 基本的なことについては概ねできているように感じるが、自分の思いや考えを大切にし、自分なりの表現をしていく力を養っていく。
 - 想像したり抽象表現など、発想を大切にした活動をすすめていく。

【保健体育科】

- 自己や他者の課題を見つけ、話し合いなどを通して仲間と協力して課題解決することができる。技術の習得や課題解決に向け仲間と協力し、できる楽しさや喜びを共感し、より意欲的に取り組むことができるようにする。
- 「書く力」の向上に重点を置いて取り組んでいる。そのため、以前に比べて「書くこと」への抵抗感は少なくなり、「書く力」も着実に向上してきている。また、ICT機器やホワイトボードなどを活用し、視覚的に支援しながら、イメージや根拠をもって取り組む生徒が増えてきている。全国学力テストの結果を受けて、「話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすること」「仲間との協働・共感性」などの思考力・判断力・表現力に弱点があると考え、継続して「指示を聴いて理解し取り組む力」と共に、仲間と協力や教え合いを行うといった中で「より深いコミュニケーション力」を向上できるように指導する。

【技術科】

- 自分で課題を見つけて考えることができるようにする。
自分自身の力で問題解決に向かうことができる力を育成する。
- 持続可能な社会の実現に向け、新しい教科書の中には「問題解決」という言葉がたくさん出てきている。その中で、どの領域においても問題をどのように探し、どのようにとらえるかが大切となる。そこで、発表などの自分の考えをアウトプットする際には根拠を問うようにしていく。また、生徒たちには「自分はこう考えたからこう思った」というように自らどのように考えたのかを述べることができるように指導していく。

【家庭科】

- 自分で課題を見つけて考えることができるようにする。
自分自身の力で問題解決に向かうことができる力を育成する。
- 持続可能な社会の実現に向けた授業を展開していく。そのために、生徒たちができることはまず、「知る」ことである。どの単元においても、過去、現代、未来を知ることから、毎日の生活の実践が始まると考える。
 - 環境に配慮した衣生活、消費生活などを自ら実践するためには、実際の生活を振り返らせ、課題を見つけ改善に向かわせるようにしなければならない。多くの情報を得て知って考える力を培う必要がある。それは、家庭科教育の持つ力である。

【全教科共通】

- 引き続き、豊岡市5つの「徹底・継続」実践事項による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。
- 一人一台端末を話し合い活動に取り入れ、工夫した活動を構築する。(ICT支援ツールの活用や意見の確かめ合いや深め合い、すり合わせ等の場面を1時間に一度は設定する)